

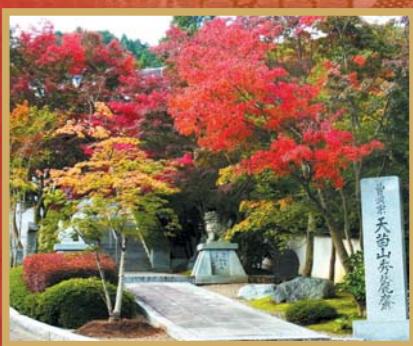
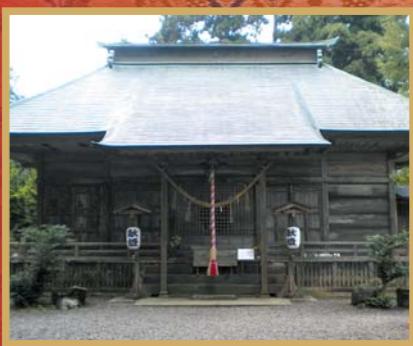
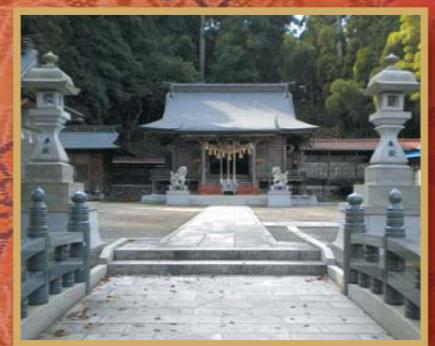
名取
いにしえの

歴史めぐり

M A P



歴史的な資源が数多く残る街、名取。興味のある人物に関連する箇所を巡るもよし、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を思わせる「名取熊野三社」を参拝するもよし。テーマに沿ってぐるりと、ゆるりと、歴史深い名取を感じてください。



名取に ゆかりのある 人物

① 桜がり 雨は降りきぬ 同じくは ぬるとも花の 蔭にかくれむ
② みちのくの 阿古耶の松を たずね得て 身は朽ち人と なるぞ悲しき

藤原実方

平安時代中期の公家・藤原実方朝臣は、特に和歌に関してすぐれた才能があったといわれている人物で、中古三十六歌仙の一人。源氏物語の主人公・光源氏のモデルともいわれている。藤原一門の中でも由緒ある家柄に生まれ、藤原道長とは又従兄弟の間柄である。そのような華やかな世界にいた人物がなぜ名取にゆかりがあるのかというと、実方の風流心が評判となった「①」の詠を藤原行成が批判したことに始まる。このことを伝え聞いた実方は、殿上(宮中)において、行成と出会い頭に行成の冠を庭へ放り投げ棄て、立ち去った。この一件をご覧になった一条天皇は「行成は召仕うべき者」と思召されて、蔵人頭に補せられ、実方には「歌枕を見てまわれ」と陸奥守に任せられた。これがきっかけで中将藤原実方朝臣は、長徳元年(995年)京の都を後に、陸奥の国司として赴任して来るのである。みちのくを歩くこと足かけ4年、実方が出羽国千歳山阿古耶の松を訪ねた帰り道、名取の笠島道祖神の前(現・佐倍乃神社)で馬が暴れて倒れ、落馬し、これがもとで病の身となり、「②」の痛恨の一首を残して長徳4年(998年)帰らぬ人となったのである。

まめ知識

藤原実方の歌は小倉百人一首にも残っている。

「かくとだに えやはいぶきの さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを」

朽ちもせぬ 其の名ばかりを
留めおきて 枯野のすすき
かたみにぞ見る

西行法師

文治2年(1186年)秋、西行が実方の墓を訪ねた折に読んだ歌が刻まれた歌碑が、実方の墓の側に立っている。また、この歌にちなみ名づけられた「かたみのすすき」が残る場所には、仙台の俳人・松洞馬年の句碑がある。

笠島は
いづこ皐月の
ぬかり道

松尾芭蕉

実方の墓には、芭蕉も元禄2年(1689年)5月に参ろうとしたが、雨で道が悪く断念せざるを得なかった。その際、一句手向けている。句碑は、墓に向かう桜の木の下と、芭蕉が歩いたと思われる奥州街道沿いに立っている。

① 旅衣 ひとへに我を 護りたまへ
② 我は唯 旅すずしかれと
祈るなり

正岡子規

奥の細道へ歌枕の地を訪ねることを目的に東北を旅した明治26年(1893年)、子規が27歳のときに実方の墓を詣で「①」と詠んでいる。途中、実方が落命した場所である愛島の道祖神社(現・佐倍乃神社)にも立寄り「②」も句に残している。

笠島は
あすの草鞋の
ぬき処

松洞馬年

「かたみのすすき」のすぐそばには、仙台藩士で天保の俳人・松洞馬年の句が刻まれた石碑もある。この句碑は、別名「草鞋塚の碑」とも呼ばれている。

名取歌詠みびとめぐり

和歌にすぐれた才能を持った「中将藤原実方朝臣」の最後の場所であるため、有名な歌人や俳人が名取の地を訪ね、歌や句を残している。
実方ゆかりの地を訪ね、歌詠み気分でいにしえに思いを馳せてみませんか?

平安時代の公家・歌人が眠る

中将藤原実方朝臣の墓



小倉百人一首にも名歌が残る藤原実方朝臣は、和歌にすぐれた才能を持った人物であったことから、この名取の地で帰らぬ人となった後にも後世の有名な歌人や俳人がこの場所を訪ね、彼を偲び歌や句を残している。

【住】名取市愛島塙字北野42

【問】022-384-2111(文化振興課)

【P】有

ただの石ではない!? 実方が乗った馬の鞍を掛けたといいわれが残る鞍掛け石



「中将藤原実方朝臣の墓」の駐車場付近から山手を見ると、小川の側に大きな石がある。この石は、実方が陸奥守に任せられこの地を訪れた際に、馬の鞍を掛けたという逸話がある。

【住】名取市植松字西向62-1

【問】022-384-2111(文化振興課)

【P】無

ただの石ではない!? 実方が乗った馬の鞍を掛けたといいわれが残る鞍掛け石

●ココにも注目!

西行法師、松尾芭蕉など、有名な歌人・俳人がこの地を訪ねて(思いを馳せて)残した歌や句が刻まれた石碑がいくつか残る。



表参道の竹林道に誘われて

佐倍乃神社(道祖神社)



中将藤原実方朝臣は陸奥の国司として赴任中、この神社の前で神社の神に無礼な発言をし、馬を下りずに通過しようとした。その途端に、馬が暴れて落馬してしまう。これがもとで実方は病の身となり「みちのくの 阿古耶の松を たずね得て 身は朽ち人と なるぞ悲しき」の痛恨の一首を残して帰らぬ人となつたと伝えられている。

【住】名取市愛島塙字西台1-4

【問】022-382-3887

【P】有

●ココにも注目!

かつて神社の表参道であった竹林道と
道沿いに跡を残す笠島廃寺跡

神社の鳥居に向かってまっすぐのびる参道は、見事な竹林道である。その鮮やかさは、まさに心があらわれるよう。竹林道の途中には、市指定記念物史跡「笠島廃寺跡」とその説明板がひっそりと立ち、歴史を静かに物語っている。

【問】022-384-2111
(文化振興課)

少し足をのばして…

芭蕉の思いを近くに感じる芭蕉の句碑
奥州街道沿いには、松尾芭蕉が実方の墓を訪ねたかったが天候が悪く向かうことが出来なかった無念さを残した句碑がある。芭蕉が歩いたであろう場所から思いを馳せてみると風情がある。

【住】名取市植松字西向62-1

【問】022-384-2111(文化振興課)

【P】無

●ココにも注目!

「中将藤原実方朝臣の墓」の駐車場付近から山手を見ると、小川の側に大きな石がある。この石は、実方が陸奥守に任せられこの地を訪れた際に、馬の鞍を掛けたといいわれが残る鞍掛け石

【住】名取市植松字西向62-1

【問】022-384-2111(文化振興課)

【P】無

伊達家ゆかりの社寺めぐり

江戸時代、現在の宮城県全域と岩手県・福島県の一部を領地とした仙台藩は伊達家が治めていた。
伊達家ゆかりの神社や仏閣を巡って、時代の息吹を感じてみませんか?

かつて伊達政宗の書斎であったことから「齋」と名が付いた

天苗山 秀麓齋



寺でありながら「齋」という名は全国的に珍しいが、伊達政宗の書斎として使われたことから名づけられた。もともとは、伊達家の祖尚宗が、別名「利勝觀音」と称される寺のご本尊である聖觀世音菩薩に深く帰依していたことから、寺の保護にあたっていたという。

そのため、今でも本堂には、尚宗、積宗、輝宗三公、そして伊達家家老高館城主福田駿河守の位牌が安置されている。また、後の藩主伊達政宗が、寺と尚宗とのご縁に因んで奉納した千体仏も奉安している。

さらには、奥州三十三觀音靈場の第二番札所でもあり、遠方からの参拝者も絶えず訪れている。

【住】名取市高館吉田字上鹿野東88

【問】022-384-7270

【P】有

伊達家十一代持宗公夫妻供養の寺

谷田山 耕龍寺



戦国時代の名家、伊達家十一代持宗によって応仁元年(1467年)に開創された。初代住職は持宗公の五男で天初薬源大和尚である。また、市指定有形建造物である山門は、伊達家藩主片倉家の居城であった白石城の門の一つを明治の初めに移築したもので、大手門もしくは厩門と考えられている。

【住】名取市増田字北谷157

【問】022-382-3641(耕龍寺)、022-384-2111(文化振興課)

【P】有

●ココにも注目!



敷地内には寺を開創した「伊達持宗公夫妻供養五輪塔」もひっそりとある。有形文化財美術工芸品であるこちらも注目したい。

今熊野神社

伊達政宗の命により造営した

熊野三社権現を信心していた女性が、この地にも神社を建立してほしいと100日に及ぶ山ごを行った。これを知った村の長が政宗に陳情し、建てられたという。神社には、熊野堂神樂の流れをくむ岩戸神楽で、榊浦神樂と称する黙劇の祈祷の舞である「今熊野神社付属神楽」がある。

【住】名取市高館川上字北谷10-1

【問】022-384-7574

【P】有

●ココにも注目!

●春は桜や梅の花、秋には紅葉と、四季折々に表情を変える境内庭園の景色も美しい。
●毎月第1日曜の朝6時半から8時には、誰でも気軽に参加可能な無料の坐禅会を行っている。

名取熊野三社めぐり

名取熊野三社とは、熊野本宮・熊野速玉(新宮)・熊野那智の三山信仰で具現化されるが、たいてい各地方では三社合祀を行い、熊野神社として信奉されている。しかし、名取では紀伊の熊野三山同様の地理的・方角的位置関係に三社がそれぞれ勧請されているため、珍しい。今、世界遺産登録で注目を浴びる紀伊山地の靈場と参詣道を、身近に感じられる「名取熊野三社めぐり」をしてみませんか?

熊野神社(旧新宮社)



●ココにも注目!

神社には熊野堂神楽と熊野堂舞楽が古くから繼承され、どちらも県指定無形民俗文化財である。春例祭(4月第3日曜)には神楽と舞楽、秋例祭(10月第2土曜)には神楽が見学できる。

【住】名取市高館熊野堂字岩口上51

【問】022-386-2952

【P】有

熊野那智神社



●ココにも注目!

海からも見え、目印となっていたという「高野横」やシンボル的大木「山一」もある境内を、夏には紫陽花が鮮やかに彩る。

【住】名取市高館吉田字館山8

【問】022-386-2353

【P】有

熊野本宮社



●ココにも注目!

市指定無形民俗文化財である「熊野堂十二神鹿踊」が春(4月)と秋(10月)の例祭時に舞われる。見学可能。

【住】名取市下余田字飯塚289

【問】022-384-2111(文化振興課)

【P】無

紀州熊野の地にある熊野三社を名取の地に勧請したとの伝説がある

名取老女の墓

名取熊野三社の勧請には、平安末頃に紀州熊野の神々を厚く信じた一人の巫女(名取老女)の伝説がある。老女の徳を妬んで地元の人々が建立した墓には、毎年紀州熊野に参拝していたという健脚にあやかり、草鞋と草履を奉納する習慣が残っているという。

【住】名取市下余田字飯塚289

【問】022-384-2111(文化振興課)

【P】無

奥州三十三觀音めぐり

「觀世音菩薩が三十三種の姿に化身し、衆生を救う」という考え方から、三十三の觀音靈場が選定され、各地にその名残を残しているが、奥州三十三觀音靈場は、奥州巡礼を一度すると3年、二度すると6年、三度すると10年の長寿を觀音様に祈念したとされ、重ね参りであらたかな利益があるといわれている。

第一番札所「那智山紹樂寺」



觀音堂は、名取老女が紀州三熊野神社を勧請したと伝承する名取熊野三社が位置する高館山にある。別名「高館觀音」とも呼ばれ、十一面觀音菩薩が安置されている。

【住】